1. 会合名	公社債の店頭取引等に関するワーキング・グループ（第4回）
2. 日時	平成26年4月21日（月）午後4時～午後4時30分
3. 議案	<p>1. 新日銀ネット総合運転試験への対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日銀ネット第2段階稼働開始に向けた総合運転試験に関する検討事項アンケート」の結果及び今後の対応方針について <p>2. その他</p>
4. 主な内容	<p>1. 新日銀ネット総合運転試験への対応について</p> <p>事務局より、「日銀ネット第2段階稼働開始に向けた総合運転試験に関する検討事項アンケート」の結果及び今後の対応方針について、資料1及び資料2に基づき説明が行われた。</p> <p>（主な意見等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局より新日銀ネット総合運転試験（以下「RT」という。）の対応方針について説明いただいたが、日本証券クリアリング機構（以下「JSCC」という。）と市場参加者が日々決済を行っているものに関しては、別途、JSCCからテスト環境の提供があると認識しているが、証券市場のRTのシナリオとの関係はどうか。（委員等） ⇒ 現在、各決済機関とも意見交換をさせていただいている。各決済機関から御提供いただくテスト環境と、証券市場のテストシナリオとの間に齟齬が生じないように配慮しながら、対応していくこととしたい。（事務局） ・ RTでは、想定日に実際に行われた国債決済のすべてを再現するわけではなく、JSCCが示すシナリオは関係ないということか。（委員等） ⇒ 証券市場のテストシナリオでは、現時点では、実データを用いることを予定しているが、それに仮想データをどの程度加えるか等については、今後検討していくこととしたい。JSCCから御提供していただくテスト環境で、証券市場のテストシナリオがどこまで対応可能かという問題もあるので、テストシナリオの内容についてはJSCCに確認の上、調整していくこととしたい。（事務局） ・ 参加者によっては、すべてのRTに参加するわけではなく、当日の取引全件を対象とすることとしても、取引によっては相手先がテストに参加していないこともあり得る。また、テストしたい取引がRTの想定日にはなかったというケースも考えられるため、そのような場合の対応についても考えて頂きたい。（委員等） ・ 各決済機関と各市場間の調和がRTの企画において重要であると考えており、当行としても、潤滑油となれるようお役に立ちたいと考えているので、ぜひ御協力をお願いしたい。また、大規模プロジェクトであるので想定外の事態が発生するリスクも大きいですが、極力そのようなリスクを抑えられるよう、各自が早期に問題提起をしていくことで対応していくこととしたい。（日本銀行）

	<ul style="list-style-type: none"> ● R T（フェーズ2）の参加者の範囲及び参加回数並びにR T（フェーズ2）のテストシナリオの検討時期に係る今後の対応方針については、事務局案にて対応することとし、R Tのフェーズ2に参加する参加者の範囲と回数等について、本年5月を目途に本協会より通知を行うこととした。 ● テストシナリオの検討については、本ワーキングの下に検討部会を設置し、当該検討部会にて検討を進めることとした。 <p>2. その他 特になし。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
5. その他	※本議事要旨は暫定版であり、今後、内容が一部変更される可能性があります。
6. 本件に関する問い合わせ先	公社債・金融商品部（03-3667-8456）